

《推定少女》

图书基本信息

书名：《推定少女》

13位ISBN编号：9784044281038

10位ISBN编号：4044281033

出版时间：2008年10月

出版社：角川書店

作者：桜庭 一樹

页数：315頁

版权说明：本站所提供下载的PDF图书仅提供预览和简介以及在线试读，请支持正版图书。

更多资源请访问：www.tushu000.com

《推定少女》

内容概要

《推定少女》

作者簡介

櫻庭一樹（1971年7月26日～）生于鳥取縣米子市，于1993年獲得“DENiM（日本著名時尚雜誌）新人賞”而出道，出道前曾在《From A》等雜誌上以山田櫻丸的名義擔任遊戲腳本，直到1999年以《夜空中滿天繁星》（夜空に、満天の星）獲得第一屆法米通電玩大獎（小說部門），始以櫻庭一樹之名發表作品。2003年起以輕小說《GOSICK》系列獲得廣大讀者支持。2004年以輕小說《推定少女》、《糖果子彈》（砂糖菓子の弾丸は撃ちぬけない）等書受到文藝界的普遍關注，逐漸在大眾文學領域嶄露頭角。2005年發表了《不適合少女的職業》（少女には向かない職業），題材和風格開始向社會派轉變，成為當年東京創元社的暢銷書，并被改編成連續劇（2007年）。2006年還以短篇小說《少年與夜行犬》（少年バンコラン！夜歩く犬），與蘆邊拓、柄刀一、鳥飼否宇、二階堂黎人等人聯手打造了“密室之王”卡爾百年紀念小說集《密室與奇跡》。2007年5月14日，以《赤朽葉家的傳說》獲得了第60屆日本推理作家協會獎（長篇部門），入圍第137屆直木獎與第28屆吉川英治文學新人賞。2008年初，以被譽為“日本的《呼嘯山莊》”之傑作《我的男人》（私の男），勇奪138屆直木獎桂冠。另著有《少女七竈和七個可憐的大人》、《荒野之戀》、《藍天》、《為青年設立的讀書俱樂部》等書。為日本備受矚目的新生代作家。

《推定少女》

精彩短评

- 1、死去，或者长大
- 2、还是一个青春的逃亡童话；总觉得对一个女生来说，樱庭一定比你更懂你... “また一緒にどこかに行こう”
- 3、少女和成长的故事。略逊于糖果子弹。

《推定少女》

章节试读

1、《推定少女》的笔记-第287页

白雪はまだ手を振っている。ぼくは叫んだ。帰りたくなかった。この期に及んでもまだ逃げたかった。だから叫んだ。

子供の言葉を。

「白雪っ……ぼくは大人になんかなりたくないよ。絶対になりたくないよ。ぼくは自分をしてる。十五歳にもなれば自分のことがわかるよ。ぼくは自分に絶望してる。ぼくにはわかる。ぼくには……」

白雪は小首をかしげて、また笑顔を浮かべた。

どんどん遠くなる。

白雪……！

「ぼくはきつとつまらない大人にしかねないよ！」

誰か聞いて……。

大人になりたくない理由を聞いて。

怒らないで、ぼくの言い分を聞いてよ。

2、《推定少女》的笔记-第189页

……なにか反論したい。

ぼくののどの辺りでいるんな言葉が、声になる前に泡みたいにはじけて、消えた。望んで生まれてきたとは言い切れない。勝手に生んでさ、と文句を言いたいこともあった。恩ある親はもっとぼくを信じてくれるはずだ、とか。この手でころすみたいなこと言わずに、言い分をもっと聞いてくれるんじゃないかとか。

だいたい、ガムテープとビニール紐をもって窓から入ってきたりしないんじゃないかとか。

親に感謝なんておかしいとか。学校も、勉強も、世の中も好きじゃないとか。自分のことだって好きって言い切れないとか。ゲームは好き。お菓子も。同じ趣味を持つ、話の合う友達も。ぼくに言えるのはそれぐらいだ、とか。

そんなことは、でもぼくがなにか言おうと息を吸うたび、ヤワラの人に先に怒鳴られていまって、結局まったく声にはならないのだった。

「どれだけ親に心配かければ気が済むんだ。満足か？悲しませて苦しませて、怪我までさせて、満足か？このばか娘。反省しろ。もっとちゃんと生きる。世の中をなめるな」

「……自分の子供にも、そういう態度？」

やっとそれだけを言った。

ヤワラの方は、一瞬、無表情になった。

3、《推定少女》的笔记-第282页

夜の学校は真っ暗でしんと静まり返っていて、かすかに硝煙の匂いがした。ああ、ここは戦場なのだ。世の中のあちこちからいやいやな匂いが立ち上がっている。いちいちぼくはそれに気づく。だけどその匂いの中、なんとかして生きていけないといけないんだ。なんとかして生き残ってなんとかして大人にならないと、死んでしまう。

……

《推定少女》

夜空に不吉に浮かび上がる学校の暗い灰色の校舎が、ぐにやりと歪んで液体のようになごめき、ぼくたちを追いかけてきた。ぼくは泣き出した。どこにも帰りたくなんてなかった。ただ逃げたかった。ここ以外のどこかに。誰かに魔法みたいに見事に助けてほしかった。別の世界に行きたかった。だけど誰にも迷惑をかけたり心配させたりしたくなかった。おかあさんを悲しませたくなかった。自分だけ我慢すればいいという気もしていた。

誰か助けてよ。

魔法みたいにぼくを助けて、別世界に連れて行ってよ。

大人になりたくないよ。努力したくないよ。もっともなことを頭ごなしにいわれて返事もできずにふてくされて黙り込む。そんな毎日はもういやだ。

だけど戦死したくはないんだ。

4、《推定少女》的笔记-第60页

毎日どこかで、ぼくたちは大人にころされてる。心とか。可能性とか。夢見る未来とかを。足蹴にされて踏みつけられて、それでもまた朝になったら学校に行かないといけない。

そういった殺戮は、日本中いたるところで毎晩のように起こっているんだ。この瞬間だって、泣きそうになって夜空を見上げている中学生は、僕だけじゃない。同じ夜空を見ている誰かが、いるはずなんだ。

《推定少女》

版权说明

本站所提供下载的PDF图书仅提供预览和简介，请支持正版图书。

更多资源请访问:www.tushu000.com